

# ICT 活用授業実践

令和4年9月20日 授業者:井出 悠介

## 【社会科】 水産業のさかんな地域—長崎県—

本時のねらい 養殖業に関わる人々の働きを協働的に調べ、養殖業に関わる人々の工夫や努力について話し合うことを通して、養殖業に関わる人々は、水産資源を守るための工夫や努力をすることで、食料生産を支えていることを理解することができる。

### 話し合いの姿

- ・「漁業生産量と消費量の変化」のグラフを見てみると、1990年頃から漁業生産量が消費量に追いついていないことが分かるよ。生産量が消費量に追いついていないなら、水産物を食べられていないと思うんだけど、なんでぼくたちは水産物を食べることができているの。
- ・消費者に安定して水産物を食べられるように養殖業を行うことで、足りない分を補っているんだよ。
- ・なるほど、「養しょくと天然の生産量のわりあい」の資料に養殖率 100%の水産物があるから、そのことを証明しているね。養殖業に関わる人々は、いろいろな工夫をしてわたしたちの食生活を支えてくれているのだね。

### ICT 活用の目的

一人では調べきれない情報を話し合いながら協働的に調べることで、養殖業に関わる人々の工夫や努力について、より多くの情報を精査しながらまとめることができる。

- ・自他が見いだした養殖業に関わる人々の工夫や努力の協働的に調べたことを瞬時に共有できるように、ペアごとに養殖業に関わる資料が添付されたロイロノートの共有ノートを用意する。
- ・話し合ったことや考えたことを視覚化できるように、学習シート内の資料を自由に移動し、資料から分かったことを記述するよう促す。
- ・それぞれのペアで見いだした養殖業に関わる人々の工夫や努力についての共通点や相違点を見いだせるように、それぞれのペアの学習シートを比較し、気付いたことを話し合うよう促す。

### 子どもの課題意識

養殖業をしている人たちは、わたしたちがいつでも水産物を食べられるようにするために、どのような工夫や努力をしているのだろう。  
(※学習計画表を提示したり、既習内容を問いかけたりすることで課題意識をもたせる。)